

toVO トヴオ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2

Chise 食堂



玄米 & Jamaican Food
Chise 食堂



NO. 019
20131011

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。



インタビュー

今号のご家族 ▶ 田中 真也さん・ゆかりさん・八八ちゃん
やや

撮影場所 ▶ Chise 食堂 (弘前市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶真也さん「その時は、職業訓練校のパソコン教室で授業を受けてましたね。当然、停電で授業は中止に…。」
▶ゆかりさん「私のやってる美容室が(真也さんのいた場所から)近かったので、(真也さんが)顔を出してくれて…。お店からアラジンストープを借りて、一緒に私の家に帰りました。」
▶真也さん「その頃はまだ結婚前で別々に暮らしてたんですが、震災後は彼女の所にいる時間が多かったですね。震災当日の夜はストープを使って調理したり、僕はカリンバ(アフリカの楽器。親指ピアノとも)弾いたり、太鼓叩いたりしてました。あと、ずっと携帯電話で津波や、原発関連のニュースを見てました。」

▶ゆかりさん「翌日は、卒園式に出席するお客さんの予約が早朝から入っていましたので、一応、お店に行ったものの、やはり現れないし、連絡も取れない…。幸い(お店のある)弘前駅周辺は朝7時には電力回復してましたので、友達や連絡取れる人に電話して“シャンプーしに来ない～?”って呼んでましたね。それでも午後からは普通にお客さんもいらっしやるようになって…。」
▶真也さん「それほど“大変だった”ってことはありませんでした。1週間くらいはガソリンを確保するのに苦労しましたけど。」

●震災以降、二人で何か話し合ったり、変化したことなどはありましたか？

▶真也さん「家族が欲しいなと思うようになりました。」

た。離れていることないなって。震災前から予定していたことですが、2011年の5月には引っ越して、一緒に暮らし始め、9月にはそこで『Chise 食堂』をオープン。11月に結婚しました。2011年は忘れられない年です。」
▶ゆかりさん「国に任せきりにはできないなと思うようにもなりましたね。自給自足志向も強まりました。子供もできて尚更。」

▶真也さん「岩木山が綺麗に見える地に引っ越すことになったんですが、そこで“農”を生活に取り入れていきたいですね。お店も他の場所に引っ越して、そこで『Chise 食堂』と『GLEE HAIR』(ゆかりさんのお店)を1軒の建物で“一緒に”やっていくことになりました。」

●10年後は？▶真也さん「もっと“農”を生活の中に取り入れていると思います。自給自足への道をちょっとずつ進んで行く。そんな生活を子供に見せておきたいですね。水はどこから来るのか、電気はどこから来るのかを知ってほしい。」

▶ゆかりさん「子供には素直で元気に育ってほしいですね。そして、どんどん世界に出て欲しい。世界を見て欲しいと思います。新婚旅行で自給自足の生活が根付いているカンボジアを訪れる予定でしたが、子供(八八ちゃん)ができて行けなかったんですよ。そんなこともあり、子供にはカンボジアをはじめ、いろんな所で、いろんなことを感じてほしいと思います。」(終)

定期購読のお申し込み 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金) / 1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール (info@tovo2011.com) にてお申し込みください。シーズン1(No.000～No.011 / 12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記 真也さんの美味しい玄米菜食とジャマイカ料理をいただけるお店、『Chise(ちせ) 食堂』と、奥様ゆかりさんの美容室『glee hair』が、この秋から弘前市文京町13-9で「一緒に」営業再開している(両店とも●10時～19時【L.O18時】●月曜、第一・第三日曜休●満月、新月の日は23時まで営業)。家族一緒に時間がますます増えていく。家族の物語がどんどん編まれていく。ここでもここでも。【なるみ】

東日本大地震・津波被災者チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2013年8月25日まで

¥1,862,131

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶田中 真也さん・ゆかりさん・八八ちゃん

撮影場所▶Chise食堂(弘前市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶真也さん「その時は、職業訓練校のパソコン教室で授業を受けてましたね。当然、停電で授業は中止に...。」

▶ゆかりさん「私のやってる美容室が（真也さんのいた場所から）近かったので、（真也さんが）顔を出してくれて...。お店からアラジンストーブを借りて、一緒に私の家に帰りました。」

▶真也さん「その頃はまだ結婚前で別々に暮らしてたんですが、震災後は彼女の所にいる時間が多かったですね。震災当日の夜はストーブを使って調理したり、僕はカリンバ（アフリカの楽器。親指ピアノとも）弾いたり、太鼓叩いたりしてました。あと、ずっと携帯電話で津波や、原発関連のニュースを見てました。」

▶ゆかりさん「翌日は、卒園式に出席するお客さんの予約が早朝から入っていましたので、一応、お店に行ったものの、やはり現れないし、連絡も取れない...。幸い（お店のある）弘前駅周辺は朝7時には電力回復してましたので、友達や連絡取れる人に電話して“シャンプーしに来ない～？”って呼んでましたね。それでも午後からは普通にお客さんもいらっしゃるようになって...。」

▶真也さん「それほど“大変だった”ってことはありませんでした。1週間くらいはガソリンを確保するのに苦労しましたけど。」

●震災以降、二人で何か話し合ったり、変化したことなどはありましたか？

▶真也さん「家族が欲しいなと思うようになりました。離れていることないなって。震災前から予定していたことですが、2011年の5月には引っ越して、一緒に暮らし始め、9月にはそこで『Chise食堂』をオープン。11月に結婚しました。2011年は忘れられない年です。」

▶ゆかりさん「国に任せきりにはできないなと思うようにもなりましたね。自給自足志向も強まりました。子供もできて尚更。」

▶真也さん「岩木山が綺麗に見える地に引っ越すことになったんですが、そこで“農”を生活に取り入れていきたいですね。お店も他の場所に引っ越して、そこで『Chise食堂』と『GLEE HAIR』（ゆかりさんのお店）を1軒の建物で“一緒に”やっていくことになりました。」

●10年後は？

▶真也さん「もっと“農”を生活の中に取り入れていると思います。自給自足への道をちょっとずつ進んで行く。そんな生活を子供に見せておきたいですね。水はどこから来るのか、電気はどこから来るのかを知ってもらいたい。」

▶ゆかりさん「子供には素直で元気に育ってもらいたいですね。そして、どんどん世界に出て欲しい。世界を見て欲しいと思います。新婚旅行で自給自足の生活が根付いているカンボジアを訪れる予定でしたが、子供（八八ちゃん）ができて行けなかったんですよ。そんなこともあり、子供にはカンボジアをはじめ、いろんな所で、いろんなことを感じてほしいと思います。」

【編集後記】真也さんの美味しい玄米菜食とジャマイカ料理をいただけるお店、『Chise（ちせ）食堂』と、奥様ゆかりさんの美容室『glee hair』が、この秋から弘前市文京町13-9で「一緒に」営業再開している（両店とも●10時～19時【L.O18時】●月曜、第一・第三日曜休●満月、新月の日は23時まで営業）。家族一緒の時間がますます増えていく。家族の物語がどんどん編まれていく。ここでもそこでも。【なるみ】

【寄付総額】2011年6月～2013年8月25日まで、『¥1,862,131』を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。